

昭和二十年八月一四日 水曜

陸軍

一七時大臣、總長前後ニテ登廳、大臣ハ荒尾大佐ト共ニ總長室ニ至リ決行ニ同意ヲ求ム然ルニ總長ハ先ツ官城内ニ兵ヲ動カスコトヲ難シ(計畫ハ本日十時ヨリノ御前會議ノ際隣室迄押シカケオシテ侍從武官ヲシテ御居間ニ案内セシメ他ヲ監禁セントスルノ案ナリ)次テ全面的ニ同意ヲ表セス茲ニ於テ計畫解シ萬事去ル

二大臣ハ自室ニ歸レハ東部軍司令官田中大將參謀長高島少將アリテ待ツ大臣ハ一般的ニ治安警備ヲ嚴ニスヘキ旨示サレタルニ對シ參謀長ヨリ降伏受諾ノ結果トナラサルコトニ關シ禮々具申シ繼戰トナレハ治安ヲ維持スルコト可能ナルモ降伏トナリテハ請ケ合ヒ兼又ル旨述ヘ且假令御聖斷アルモ詔書ニ副

0947

3-14

書セサレハ効力發生セストノ意見等述ヘ治安出兵ノ
爲ニ筆記命令ヲ賞ヒ度旨述ヘタリ

三 一才此ノ日畑元帥廣島ヨリ到着次官之ヲ迎ヘ此ノ
頃陸軍省ニ出頭セラル白石參謀隨行原千煇彈
ノ威力大ニタリトモ非ル旨語レルヲ以テ元帥會議ノ際
是非其ノ旨上聞ニ達セラレ度頼ム

四 茲ニケノ挿話アリ即大臣總長室ヲ出自室ニ歸ヘ
リ東部軍管區司令官ト面會終リシ頃井田中佐
大臣室ニ來リ總長カ先程上奏ニ出ラレシモニ課總
務課ニ訊スモ上奏案件ナク、今ノ大臣ノ計畫ヲ暴
露ニ行カレシニアラスヤ、且總長ハ昨日鈴木東郷迫
水ト會シアリ本日ノ御前會議ニ於テハ和平論ヲ唱
フルコトナリシ風説アリトノコトヲ述フ眞逆トハ思ヘト
モ今日ノ計畫カ計畫文ケニ棄テ置カレスサリトモ處

置モナシ大臣ハソニナコトハ無イニ課ヲヨク調ヘヨトノコト

ニテ井田ハ退室セルモ再ヒ來リテニ課ニテハ本日上奏案

件ナリト言フ參内ハ確實ナリト言フ。サレト大臣ハソニナコト

ハナイヲ繰リ込ヘセラレタリ

五 昨日ヨリノ計畫ニテハ一ロニハ省内高級部員以上集

合シアリ大臣ハ不決行ト決マリシヲ以テ訓示内容ヲ變

更ニ本日の重大時期ナルコト全省ノ一致結束ヲ説カレタ

ルニ止マシ

六 本日午前ニ豫定サレアリシ御前會議ハ一三三〇ニ延期

セラレ午前ハ閣議ノミトナル

然ルニ閣議參集ノ閣僚及平沼兩總長最高戰

争指導會議幹事ニ對シ突如一ト三〇ヨリ官中ニ

御召シ遊サレ歴史的御前會議ハ突如開カレ世

記ノ御聖斷ハ下ルルコトナリタリ

陸軍ノ昨夜ノ計畫ト思ヒ合ハセ此ノ御前會議ノ
変更過程ハ何等カノ關聯ヲ豫想セラレ即部内ニ政
府ト通スルモノナキヤヲ思ハシムルニ十分ナリ

七 竹下ハ萬事ノ去リタルヲ知り自席ニ戻リニカ黒崎中佐
佐藤大佐等相踵イテ來リ次ノ手段ヲ考フヘキヲ説キ
特ニ惟崎畑中ニ勳カサル

次ヲ總長カ決心ヲ圖メ大臣ト共ニ最後迄ヤル旨述ヘ
タリトノ報アリ茲ニ於テ「兵力使用第三案」ヲ急遽起
案ス要旨左ノ如シ

一 近衛師團ヲ以テ官城ヲ其ノ外周ニ對シ警戒戒ニ
外部トノ交通通信ヲ遮斷ス

二 東部軍ヲ以テ部内各要點ニ兵力ヲ配置シ要人
ヲ保護シ放送局等ヲ抑ヘ

三 假令墜斷下ルモ右態勢ヲ堅持シテ謹ミテ堅

慮ノ変更ヲ待テ奉ル

四右實現ノ為ニハ大臣總長東部軍司令官近衛師團長ノ積極的意見ノ一致ヲ前提トス

此頃ニ於テ吾等ハ大臣ハ閣議中ニテ御前會議ハ午後ナリト思ヒ込ミアリタリ

八竹下右計畫ヲ持參シテ官内者ニ到リ此處ニテ最高戰爭指導會議「メニバー」及閣僚全部カ御召シヨリ參集中ナルヲ知リタリ

十二時頃終了大臣ノ跡ヲ追ヒテ總理官即閣議室ニ到リ御前會議ノ模様ヲ承ハル陸相兩總長ノミニ發言ヲ許サレ其ノ後御聖斷アリシ由細部第九項

大臣ハ沈痛ナリ予ハ閣議室ヲ眺メ硯箱ノ用意ヲ見テ大臣ニ辭職シテ副書ヲ拒ミテハ如何ト申

9-17

0951

セシ所意大イニ勤キ林秘書官ニ對シ辭表ノ用意
ヲ命シタルモ辭職セハ陸軍大臣缺席ノ儘詔書換
發必至ナリ且又最早御前ニモ出ラレナクナルト咄ヲ取
上メラル

予ハ此ノ時兵力使用第二案ヲ出シ詔書發布迄ニ斷行
セシトヲ希ム之ニ對シ大臣ハ意少カラス勅カレシ様ナリ又閣
議迄ノ間一度本省ニ歸ヘル旨言ハレシニヨリ次官總長ト
御相談ノ上決意セラレ度旨述ヘタリ

之ヨリ先總長カアレヨリ朝ノ案ニ同意セラレタリト述ヘ
タルニ對シ「カウカホニトウカ」トテ兵力使用第二案ニ意勅カ
レシヲ察セリ

九午右一時ヨリ三時迄閣議アリ其ノ後大臣ハ課員以上全
員ヲ第一會議室ニ集メ左ノ趣旨ノ訓示ヲ爲セリ

本日午前最高戰爭指導會議構成員及閣僚ヲ御

陸軍

召シ遊ハサレ

御聖斷ニ依リ「ホツゾム」宣言内容ノ大要ヲ受諾スルコトトセラル其ノ時御上ニ此ノ上戰爭遂行ノ見込ナキコトヲ述ヘラレ無辜ノ民ヲ苦シナルニ忍ヒス明治天皇ノ三國干渉ノ時ノ心境ヲ以テ和平ニ御決心遊ハサレ一時如何ナル屈辱ヲ忍ヒテモ將來皇國護持スルノ確信アリ忠勇ナル軍隊ノ武装解除ハ堪ヘ難シ然レ共爲ササルヲ得スト言ハレ特ニ陸軍大臣ノ方ニ向ハレ陸軍ハ勅語ヲ起草シ朕ノ心ヲ軍隊ニ傳ヘヨト宣ハセラル又武官長ハ侍從武官ヲ陸軍者ニ派遣スル由

御聖斷ニ基キ又重ナル有リ難キ御取り扱セラ受ケ最
早陸軍ノ造ラヘキ道ハ唯一筋ニ大御心ヲ奉戴實踐ス
ルノミナリ

皇國護持ノ確信ニ就テ本日モ「確信アリ」ト言ハレ又元

7-18

0953

帥會議ニ際シテモ元帥ニ對シテ朕ハ確證ヲ有スト仰
セニアリ

三長官元帥會合ノ上皇軍ハ御親裁ノ下ニ達ムト
ト決定致シタリ

今後皇國ノ苦難ハ愈々加重スヘキモ諸官ニ於テハ過旱
ノ玉碎ハ任務ヲ解決スル途ニ非サルコトヲ思ヒ泥ヲ食ヒ

野ニ臥テモ最後迄皇國護持ノ爲奮闘セラレ度
七次ヲ軍務局長ヨリ本日御前會議ニ於ケル御言葉ヲ傳
達ス要旨左ノ如シ

自分ノ此ノ非常ノ決意ハ妻リハナイ
内外ハ情勢國內ノ狀況彼我戦力ノ問題等此等ノ

比較ニ於テモ輕々ニ判断シタモノテハナイ
此ノ度ノ處置ハ國体ノ破壊トナルカ否ラス敵ハ國体ヲ

認ムルト恩ヲ之ニ付テハ不安ハ毛頭ナイ唯又對ノ意見

東京・丸山納

0954

陸軍

(陸相兩總長ノ意見ヲ指ス)ニ付テハ字句ノ問題ト

思フ一部又對ノ者ノ意見ノ様ニ敵ニ我國土ヲ保障

古領セラレタ後ニドウナルカ之ニ付テ不安ハアル然シ戰

争ヲ繼續スレハ國体モ何モ皆ナクナツテニ己玉碎ノ

ミタ今後ノ處置ヲスルハ多少ナリトモ力ハ残ルモレカ得

來發展ノ種ニナルモノト思フ

—以下御滯ト共ニ—

忠勇ナル日本ノ軍隊ヲ武装解除スルコトハ堪エラレ又

ストタ然シ國家ノ為ニハ之モ実行セズハナラヌ

明治天皇ノ三國干渉ノ時ノ御心境ヲ心トシテヤレノ

タドウカ賛成ヲシテ呉レ

之カ為ニハ國民ニ詔書ヲ出シテ呉レ陸海軍ノ統制

ノ困難ナコトモ知ツテ居ル之ニモヨク氣持ヲ傳ヘル為

詔書ヲ出シテ呉レラゲオ放逐モシテヨイ如何ナル方法モ

3-19

0955

採ルカラ

十一閣議ハ午後七時二十分ヨリ八時半迄開カレ更ニ九時ヨリ十一時三十分迄開カレタリ此ノ間詔書案文議セラル閣僚署名アリ

十二竹下ハ連日不眠ヲ醫スル爲駿河臺澁井別館ニ歸ヘリ白井若雨中佐ト語リタル後二十三時頃就寝シタル所二十四時半頃畑中來訪シテ近歩ニ聯隊長芳加大佐ハ本日近歩ニカ守衛上番ナルヲ機トシ更ニ一ケ大隊ヲ赴援シ軍旗ヲ捧シテ蹶起スルノ決心ヲ固メ今夜二時ヲ期シ宮城ヲ固ムルノ處置ヲ採ルニ決ス近衛師團中ニハ別ニ四ケ大隊蹶起ニ同意セシメタリ自分ハ今ヨリ近衛師團長ノ許ニ至リテ之ヲ説得スルモ若シ聽カサル時ハ之ヲ許リテモ實行ス石原古賀ノ兩參謀ハ同意シアリト述ヘ予ニ對シ大臣ノ許ニ至リ本朝來ノ計畫ニ基

キ近衛師團ノ蹶起ヲ機トシ全軍蹶起ニ至ラシメラレ
 度依頼ス竹下ハ東部軍カ立タスニテハ問題トナラス近
 衛師團長モ難シカルヘク東部軍ハ今トナリテハ恐ラ
 ク同意セサルヘク成功ノ算少キヲ以テ計畫中止ヲ辭
 ニススマタルモ畑中ノ決心牢固タルモアリ且予ハ嘗
 テ予自ラ捧持セシ軍旗カ勤キ大臣ニ取リテハ之亦
 嘗テ之ヲ仰キタル軍旗カ勤ク事ハ天意カモ知レス
 ト大イユ心動キタルヲ以テ畑中ニ對シ大臣ノ許ニ至ル
 ヲ約ス但シ昨日來ノ決心ト同シク近衛師團長東
 部軍司令官ノ同意ヲ先決トシ近衛師團長ハ斬
 リテ代理者ニ依リテ勤クナラズ免モ再東部軍管區
 司令官カ立タサル時ハ大臣命令ヲ發勤ハ要求セス若
 シ兩者策應蹶起セハ大臣ニ對シカノ限リ蹶起ヲ進
 ムヘト約シ同車出發畑中ハ一寸役所ニ寄リ軍事

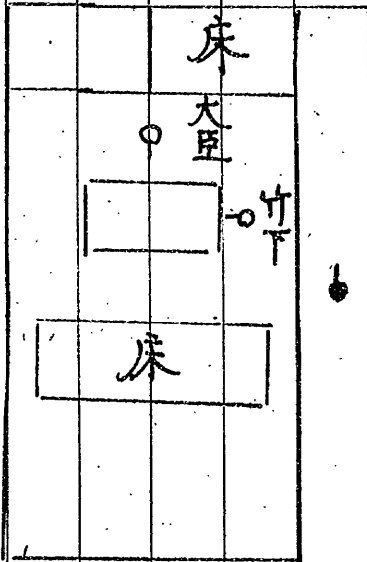
課ノ諸士ニ東部軍ヘノ工作ヲ依頼ニ直ケテ予ヲ
 大臣官邸ニ送リ自ラハ近衛師團ニ向ヒタリ
 十三十四日夜即十五日一時半竹下大臣官邸着案内ヲ
 乞ヒタル所大臣ハ自室ニ在リ「何ニ來タカト」ト答
 マル如キ語調ナリシモ臆テヨク來タトテ室ニ請ス室
 内ニ床ヲ展ヘ白キ蚊帳ヲ吊リアリソノ奥ニテ書キ
 物ヲセラシマリシ如ク感ス一遺書ナリ
 机ニハ膳ヲ置キ一酌始マヌトシアリシ模様ナリキ
 大臣ハ予ニ對シ本夜豫テノ覺語ニ基キ自外スル
 旨述ヘラレシ之ニ對シ予ハ覺語尤ニ予其ノ時機モ
 本夜カ明夜カ位ノ所ト思フニ付敢テ御止メセスト述
 ヘタル所大臣ハ大ニ喜ヒ君カ來タノテ好ケラルルカト
 思ヒシカ夫ナライイ却テヨイ處ニ來テ呉ルタトテ益ヲ
 差シ歸ル上氣嫌トナリ本夜ハ十分ニ飲ミ且語ラント

東京・丸山稿

0958

テ夫ヨリ五時頃迄語ル其ノ要旨左ノ如シ

自決



予ハ平素ニ以テ飲マシテアモリ飲ミ過キテハ仕損
 スルト悪ニト言ヒシ所否飲メハ酒カ廻リ益ノ巡リモヨク
 出血十分ニテ致死確實ナリ予ハ劍道五段ニテ腕ハ確
 カト笑ハレタリ

問答要旨 前後不同

一 若シバタバタセル時ハ君カ仕来ニテ呉レ然レシソノ心配ハナ
 カラニ

陸軍

3-21

0959

一遺書ハ「一死以テ大罪ヲ謝シ奉ル 昭和二十年八月十四日
夜陸軍大臣阿南惟幾」ト既ニ書キアルヲ示サレシ
カ裏ニ更ニ「神州不滅ヲ確信シツツ」ト書キ足サレ
タリ

辞世

大君ノ深キ恵ニ浴シ身ハ言ヒ残スヘキ片言

モナシ

八月十四日夜

陸軍大将阿南惟幾

バコレハ戦地ニホル時ノイツモノ心境ナリト言ハル

一短刀テヤルカ卑怯ノツモリテハナイ

一畳ノ上ハ武人ノ死ニ場所テハナイ外テハ見張リニ付ケ

ラレルノテ縁側テヤル向キハ皇居ノ方向ナル

一大臣ハ夜風呂ユ入りアリ自決ノ時ハ侍従武官時代

拜領セシ下着ヲ身ニ付ケラルコレハオモカオ肌ニ付

ケラレタルモノテアルコレヲ着用シテ逝クノタト

一本夜畑中穿ノ件ニ付テハ蹶起時刻タルニ時迄ハ觸

レサリシモ(事前ニ知レハ大臣トシテ中止ヲ命スルノ責
 毛生スヘキヲ考慮シタルモノナリ)二時過キ説明シタル處
 東部軍ハ立タヌタラウト言ハレタリ其ノ後三時頃窪
 田少佐來訪竹下ノ面會シ同少佐ヨリ森師團長ハ肯
 セサリシ爲畑中少佐之ヲ拳銃ニテ射撃シ窪田少佐
 軍刀ニテ斬リタル由又屆合ハセタル白石參謀(第二總
 軍)ハ制止セル爲之又窪田少佐斬殺セル由窪田少佐
 ハ報告ニ來リ今ヨリ守衛隊本部ニ行ク由ヲ聞キ取リ
 東部軍ノ事ハ分ラヌ由モ聞キ少佐ノ歸リタル後大臣
 ニ報告セル所森師團長ヲ斬ツタカ本夜ノ才說ヒモ一
 緒ニスルト瀆サレタリ
 之ヨリ先大臣ハ十三日大臣ヲ於テ井田中佐カ大臣ハ要節
 サレタノカソノ理由ヲ承リ度ト言ヒニストニ付アノ際ノ返
 答ハ井田ヲ後ニ殺シタガツタノトト言ワレ井田中佐ニモ

ロシク傳ヘテ吳ト言ハレ居リシカ井田來訪スルニ及ヒ
相擁シテ語ラレタリ

一井田中佐歸リタル後大城戸憲兵司令官來即近
衛師團ノ妻ヲ報告ニ來ラル大臣ハ夜カ明ケルカウ
始タル司令官ニハオ前會ヘトテ竹下ヲ應接間ニ出シ
其ノ後ニテ自外セラレタリ

林秘書官此ノ頃近衛師團ノ件ニテ來即應接間ニ
テ竹下ニ會ヒ大臣ノ登廳ヲ要スト言ハレシカ大臣室
ニ至リ自取中ナルヲ知リ竹下ニ其ノ旨傳ヘラル

一 細田大佐ニヨロシク

一 安井國務大臣ニ御世話ニナツク

一 林秘書官ニ禮ヲ言フテ吳レヨイ秘書官タツク

一 總長ニ長イ間衛世話ニナリマシタ書キ遺シマセン
カ閣下ニハ御世話ニナリヨシタ國家ハ閣下カ指導シ

テ下サイ

一、竹下ノ舅トシテ阿南家ノ陸軍大將トシテ堂々ト死シテ
テユク笑ツテ逝ク

一、アア六十年ノ生涯願ミテ満足タツタハハハハ

一、惟敬ニ對シテアア言フ性格タカラ過早ニ死ナヌ様吳々
傳ヘテ吳レ

一、惟晟ハヨイ時死ニテ吳レタ惟晟ト一階ニ死ニテ
逝ク

一、大臣ハ三時頃例ノ下着ヲ着換ヘソノ上ニ一度勲章
ヲ全部佩用シテ軍服ヲ着シ竹下ニ對シドウダノ堂々
タルモノタラト言ハレ此時兩人相擁セリ惣テ服ヲ脱
イテ床ノ間ニ残置サレ終ツタラ體ノ上ニカケテ吳レト頼
コシシカ、ソノ際兩袖ノ間ニ惟晟ノ寫眞ヲ抱クカ如ク
安置サレタリ

人一借家後ニ對スル情ノ強キ人トテ之ヲ見タム予ハ
 強ク胸ヲ打タレタリ
 一惟正以下男ノ子カ三人モ居ルカラ大丈夫
 一綾子ニ對シオ前ノ心境ニ對シテハ信賴ニ感謝
 シテ死ニテユクト傳ヘテ呉レ
 一姉ヲ始メ親戚一同ニヨク介カツテ呉レルタロウ
 一惟道ハオ父サニ叱ラレタト呉フト可愛想タカ此ノ
 前歸ツタ時風呂ヲ入シテ洗ワテヤツタノテヨク介カツ
 タロウ皆ト同シ様ニ可愛カテ居ルニトヲ傳ヘテ呉レ
 一家族ノ事等君カ來タカラ傳ヘラレタノヲ
 一次官ニ後ヲ頼ム
 一豊田、大西、畑閣下ニ厚思ヲ誦ス
 一板垣、石原、七畑閣下同ニク
 一荒木閣下ニヨロシク

東京・丸山納

0964

一、米内ヲ斬レ

一、臺上各位ヨロシク

一、野口餘野久雄サニヨロシク

一、辭表ノ日附ハ十四日トセラレ度

一、モラ十五日夕カ自決ハ十四日ノ夜ノ積ナリ、十四日ハ父

ノ命日テ此日ト決メタ、サウテナイ場合ハ二十日ノ性

最ノ命日夕カ、夫ヲハ遅クナル

古林秘書官ノ知ラセテ、竹下カ現場ニ到レハ大臣ハ

既ニ割腹ヲ了ハリ、喉ヲ切リツツアリ、予カ介添シ

マセウカト云ヒタルニ對シ、無用アケラニ行ケト言ハル

暫クシテ奉リ、檢スルニ少々右前ノマトトナリ居ラレタルモ

呼吸十カニ聞ユ、ヲ以テ苦シクハアリマセンカト叫バハリ

タルモ、既ニ意識ナキモ、手足モ少々動クヲ以テ、短刀ヲ取リテ合添ヘス

0965

2-24

其ノ後戴仁親王ヨリ拜領ノ軸物ヲ側ニ展ケ遣
書ヲ竝ヘ軍服ヲ体ニカケタリ

十五陸軍者ヨリ再度連絡アリシニ依リ三度大臣ノ死ヲ
遣メ登廳スヨリ時未ク叫吸アリ